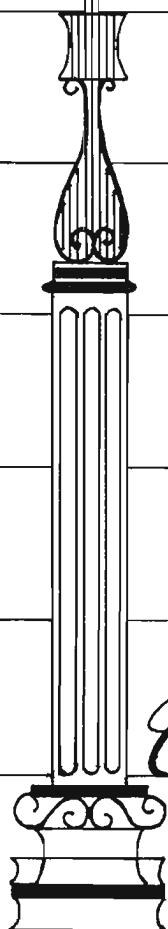


*11th
Regular
Concert*



*Tokyo University
Classic Guitar Club*

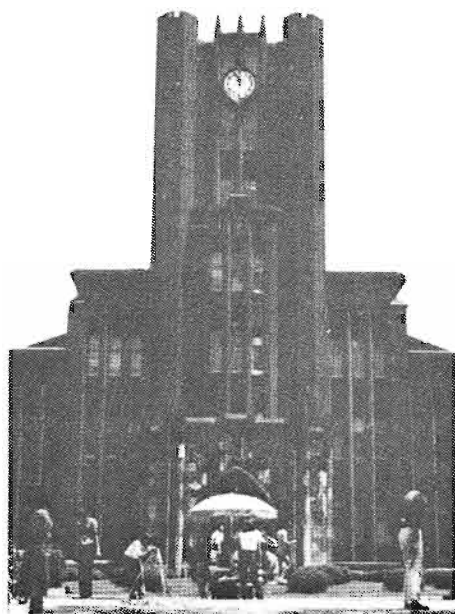


ごあいさつ

本日はお忙しい中、当愛好会の定期演奏会によろそおいでくださいました。今年度は総勢百名を越える大所帯となり、土曜日ともなると、部室は人また人であふれんばかりになります。その百名が一丸となり、この定演に向けて練習してまいりました。一年生のうち半数以上はギターを始めてからまだ半年しかたっていません。彼らにとって、今日は初めての試練の場です。また、三年生にとっては今日が会員として最後の晴舞台となります。夏・秋の全員合宿と2年・3年各々の学年合宿を経た今、私達は、その持てる力を振り絞り、自らの情熱をステージにぶつけたいと思います。どうか最後までごゆっくりお聞き下さい。

東京大学古典ギター愛好会

第11回定期演奏会



1983年10月22日(土)

目黒区民センター

PROG

1st Stage I

「リュートのための古風な舞曲とアリア」より

バレット, シチリアーナ, バッサカリア

O. レスピーギ 作曲

1st Stage II

交響曲第8番 ト長調 作品88「イギリス」より

第3楽章 アレグレット・グラツィオーゾ ト短調

Aドヴォルザーク 作曲

1・2年生 合奏

2nd Stage

パッサカリア

S.L.ヴァイス 作曲

メヌエット

F. ソル 作曲

鈴木 茂央

無伴奏チェロ組曲 第3番 BWV 1009より

サラバンド, ジーグ

J.S.バッハ 作曲

吉岡 昇

エストレリータ

M.M.ポンセ 作曲

ソナタ「ボッケリーニ賛」より ヴィヴァ・エ・エネルジコ

C.テデスコ 作曲

小口 高

RAM

「スペイン組曲」作品47より キューバ、カタルーニヤ

I. アルベニス 作曲

桐山 章

ファンタジー 作品54 bis

F. ソル 作曲

井上直樹 田中俊一

3rd Stage

バレエ音楽「三角帽子」より 代官の踊り、粉屋の踊り

ファリャ 作曲

ナバーラ

I. アルベニス 作曲

3年生合奏

4th Stage

組曲「展覧会の絵」より

プロムナード 小人

チュイルリーの庭、ビドロ（牛車）

卵の殻をつけたひよこの踊り

鶏の足の上の小屋

キエフの大門

ムソルグスキー 作曲

2年生合奏

1st STAGE

1stステージでは、1年生と2年生が力を合わせて2つの合奏団を構成し演奏します。最初の合奏団はレスピーギ作曲の「リュートのための古風な舞曲とアリア」より3曲、そして次の合奏団はドヴォルザーク作曲の「イギリス」をお送りします。ギターを始めてから日が浅い者も多くまだまだ未熟ではありますが、夏と秋の2回の合宿を通じて一生懸命練習してまいりました。その成果を今夜はじっくりとお聞き下さい。

「リュートのための古風な舞曲とアリア」より

3つの組曲から成る「リュートのための古風な舞曲とアリア」は、主に16、17世紀のイタリアのリュート曲から素材をとり、イタリア近代の作曲家Oレスピーギがオーケストラのために編曲したアルカイックな色彩感にあふれる作品です。今回、ギター合奏で演奏するのは次の3曲です。

1. バレット 原曲は、シモーネ・モリナロの「オルランド伯爵」というリュート曲で、軽やかで優雅典麗な舞曲です。
2. シチリアーナ イタリアのシチリア地方の農民の踊りを起源とする舞曲シチリアーナが素材で、ゆったりとした叙情的な旋律と分散和音風の伴奏が特徴です。
3. パッサカリア この曲の原作は、17世紀末のベルガモのL・ロンカリのギター曲で、スペインに起源をもつパッサカリアの荘重な主題がドラマティックな変奏を経て展開されていきます。

交響曲第8番ト長調 作品88「イギリス」より

チェコスロバキアの作曲家、アントニン・ドヴォルザーク（1841～1904）は、あの有名な交響曲「新世界より」によって広く知られていますが、その彼が「新世界より」の4年前にプラハで作曲したのが交響曲第8番です。この曲は、いざこざがあつた挙句、イギリスで出版されたので別名「イギリス」とも呼ばれています。しかし、その性格は彼の交響曲の中でも最も国民主義的でスラブ色豊かである、と言えるでしょう。

私たちが今回演奏する第3楽章は3部形式で2つの魅惑的な旋律を持っています。まずいく分かメランコリックなト短調の旋律が何回か展開された後、ト長調のワルツ風のトリオに入ります。郷愁に満ちたこの調べは、旧作のオペラ「石頭」のアリアの一節からとられました。そして、最初の旋律にもどり、消えゆくように終わっていきます。

2nd STAGE

2ndステージでは3年生による独奏・重奏をお送りします。実力者ぞろいの3年生の中から選ばれた6人の演奏を心ゆくまでお楽しみ下さい。

パッサカリア、メヌエット

S. L. Weissはバロック期のリュート作曲家で奏者としても有名でした。今日演奏されるパッサカリアは、低音が一定のリズムを刻み高音が変化する変奏曲の一つで、ゆったりとした主題で始まり壮厳が後に続きます。次のメヌエットは、「ギターのパートーベン」と呼ばれている F. Sorの手によるものです。Sorは古典派で最も著名なギター作曲家でした。この作品はSorのメヌエット中最も有名なもので良く演奏会でひかれます。

無伴奏チェロ組曲 第3番 BWV 1009 より サラバンド、ジグ

バッハは1717年(32歳)から6年の間(ケーテンの時代)に6つのチェロ組曲を書いています。この3番は中でも最も親しまれており、ギターで演奏されることも非常に多い組曲です。原曲はハ長調ですが、ギター用にはイ長調で編曲されているものが最も一般的で、原曲の雄大さはやや失われがちですが、ギターの重要なレパートリーの一つです。本日の演奏は6つの曲からなるこの組曲からゆったりとしたサラバンド(3/4拍子)と軽快なジグ(3/8拍子)です。

エストレリータ、ヴィヴォ・エ・エネリジコ(ソナタ「ボッケリーニ賛」より)

メキシコの作曲家ポンセ(1882—1948)は、多数の作品をギターのために書きましたが、一般の人々にはこの「エストレリータ」で知られています。元来は星になぞらえた恋人によせる歌曲ですが、美しいメロディゆえ種々の楽器のために編曲されています。「ヴィヴォ・エ・エネリジコ」(活発に、かつ精力的に)は、やはり現代ギターのために貢献したテデスコ(1895—1968)のソナタの第4楽章で、急速なアルペジオを中心に展開されます。

「スペイン組曲」作品47より キューバ・カタルーニャ

アルベニス中期の作品集「スペイン組曲」の中の8番目と2番目の曲です。この曲が書かれた当時、キューバはまだスペイン領の島でした。6/8拍子にしばしば2連音符が混ざる独特で軽やかな「キューバ調」のリズムに乗った甘美なメロディと中間部の物憂げな歌が南国の情緒をかもし出します。カタルーニャは、アルベニスの故郷の名です。郷土舞曲コランダのリズムを用い、やや地味な曲想ですが、アルベニスの故郷への想いが感じられます。

ファンタジー 作品54 bis

フェルナンド・ソルは、古典派を代表するスペインの作曲家です。今日取り上げる曲は、ソルの二重奏曲の中で特に美しい旋律を持った曲で、ジュリアン・ブリームとジョン・ウィリアムスの二重奏によってポピュラーになりました。幻想的な第1楽章(アンダンテ・アレグロ)、変奏曲的な第2楽章(アンダンティーノ)、軽快な第3楽章(アレグロ・ダン・ル・ジャンル・エスパニョル)から成り、各楽章の間は切れ目なく演奏されます。

3rd STAGE

3rdステージでは、3年生による合奏をお送りします。私達のサークルでは4年生が定期演奏会に参加しないため、3年生にとってはこれが最後のステージとなります。3年間のサークル活動で培われた高度な技術と優れた音楽性を兼ね備えた彼等の演奏に御期待下さい。

「三角帽子」より粉屋の踊り・代官の踊り

マヌエル・デ・ファリャ（1876—1946）は終生にわたり舞台音楽に興味を寄せた、スペイン民族楽派の大家でした。彼の名を不朽のものとしている管弦楽曲「三角帽子」もバレエのために書かれたものです。ペドロ・アントニオ・デ・アラルコンの同名の小説をもとにしたこの作品から2曲選んで演奏いたします。

<代官の踊り>

粉屋は、酒宴の席上からわけも告げられずに代官の護衛兵たちに連行されます。粉屋を捕えたので、代官は、その女房のもとへしのでいこうとします。水車小屋の戸口の前で、彼は、よたよたしながらも器用に踊ります。ユーモラスな、しかし優美さを兼ねそなえた美しい調べが流れていきます。

<粉屋の踊り（ファルッカ）>

聖ヨハネ祭の夜、近所の人々が粉屋の住む水車小屋に集って、酒を飲みながら、踊りに興じています。その席上で粉屋が踊るのが、このアンダルシアの民族舞曲ファルッカです。美しいカリスマ的序奏が終わると、特色ある切れのよいリズムが奏でられます。次第に熱気を帯び、結びの部分に向かって、アッチユレランドして高揚していきます。

ナバーラ

イザーク・アルベニス（1860—1909）は、スペインの生んだ大ピアニストかつ大作曲家です。十代に世界を放浪した彼は、フランスに安住しましたが、この作品にはスペインの香りが色濃く漂っています。ナバーラとは、ピレネーの西に広がる地方の名で、曲はこの地方の郷土舞曲ホタの主題に基づいています。官能的で物憂いジプシーの旋律がホタのリズムにまつわる幻想曲です。アルベニス自身はこの曲を完成できずに死去したので、南仏の作曲家デオダ・ドウ・セヴラークによって復元・完成されました。

4th STAGE

当会では、この定期演奏会に向けて、2年生が中心となって活動してまいりました。最後のステージでは、その2年生の合奏をお送りいたします。今回挑戦したのは、難曲と言われているムソルグスキーの「展覧会の絵」です。未熟な演奏ではありますが、どうか最後までお楽しみ下さい。

組曲「展覧会の絵」より

ロシアの作曲家ムソルグスキーは、親友の画家、建築家ハルトマンに先立たれた。その遺作展を見て、彼はこれを音楽で表現しようと決心した。彼は従来の形式に全くとらわれず、絵から絵へと見て歩く様を描いたプロムナード、牛車の重い動き、ひよこの楽しい踊りなどを、ピアノ組曲「展覧会の絵」にまとめあげた。今日ではラベルの管弦楽編曲で聞くことが多いが、今晚はギター合奏で抜粋をどうぞ。

1. 「プロムナード

展覧会を見て回る作者の姿。組曲中何回も現われる。このプロムナードは、これから見て回る絵を期待させる感じである。

2. 小人

ガニ股の小さい足の小人がよちよち歩いている絵。不気味な曲。

3. プロムナード

最初のプロムナードの陽気さとは打って変わり、荘重な足どりで次の絵へ。後の牛車を連想させる。

4. テュイルリーの庭

パリのテュイルリー公園で子供たちがはしゃいでいる。突然喧嘩が始まるが、最後はまたふざけながら帰っていく。

5. ビドロ（牛車）

ポーランドの大きな車輪のついた牛車が田舎道をやってくる。荷物の多さを思わず重いリズム。

6. プロムナード

美しい高音の短調の和音で始まるが、すぐ足どりは重くなる。そこで次のひよこの絵が目にとまり、期待に胸をふくらませて向う。

7. 卵の殻をつけたひよこの踊り

生まれたばかりのひよこがピョピョ鳴きながらはねまわる。それを親鶏が追いかける楽しい曲。

8. 鶏の足の上の小屋

ロシアの伝説の魔女ババヤガは、暗い森に住んで道に迷った人間を食べてしまう。どこから人間が来てもそちらを向けるよう、その小屋は鶏の足の上に建っているという。曲は、ババヤガが木臼に乗って行進するところ、中間部は森の中の神秘的な気分。

9. キエフの大門

ハルトマンの設計した、キエフ市の門のスケッチ。鐘の音やプロムナードの旋律も入り混じり、壮大に組曲を終える。

PLAYERS

I st Stage I Conductor

	八 木 寛 朝 (2年)	
1st	○芝 田 員 範 (2年)	高 橋 智 子 (2年)
	松 野 美 香 (2年)	高 亀 谷 裕 志 (1年)
	相 馬 立 夫 (1年)	多 賀 大 輔 (1年)
	徳 田 一 成 (1年)	萩 原 大 克 子 (1年)
	柳 沢 浩 徳 (1年)	
2nd	○村 谷 宏 明 (2年)	熊 沢 由 美 子 (2年)
	西 川 隆 文 (2年)	藤 田 直 美 (2年)
	池 田 欣 史 (1年)	大 輪 勤 (1年)
	岡 田 珠 世 (1年)	福 地 奈 津 子 (1年)
	堀 池 美 加 (1年)	松 川 誠 一 (1年)
3rd	○中 村 仁 (2年)	岡 本 至 (2年)
	塩 川 信 子 (2年)	平 野 京 子 (2年)
	小 泉 行 輝 (1年)	野 村 好 江 (1年)
	古 性 小 百 合 (1年)	村 田 昇 (1年)
	横 田 尚 子 (1年)	
Bass	○杉 浦 望 実 (2年)	大 間 由 里 (2年)
	設 楽 有 香 里 (2年)	松 本 紀 子 (2年)
	井 口 真 紀 (1年)	大 録 宏 行 (1年)
	杉 田 夏 樹 (1年)	三 島 弘 久 (1年)

I st Stage II Conductor

	松 岡 茂 樹 (2年)	
1st	○加 藤 友 朗 (2年)	熊 谷 博 貴 (2年)
	津 金 久 美 子 (2年)	三 浦 恵 (2年)
	安 藤 陽 一 (1年)	田 嶋 ユ キ 子 (1年)
	林 千 登 (1年)	松 井 祐 二 (1年)
	吉 田 和 彦 (1年)	
2nd	○大 湾 秀 雄 (2年)	石 井 淳 子 (2年)
	亀 山 素 代 (2年)	丸 山 貴 志 子 (2年)
	小 林 真 理 (1年)	佐 藤 浩 史 (1年)
	津 川 貴 久 (1年)	渡 部 かな え (1年)
3rd	○田 沼 充 (2年)	内 田 亜 子 (2年)
	田 中 康 子 (2年)	鷺 田 圭 祐 (2年)
	太 田 千 絵 (1年)	重 久 純 子 (1年)
	島 崎 里 子 (1年)	竹 広 真 一 (1年)
	束 野 正 明 (1年)	
Bass	○南 部 雅 弘 (2年)	伊 藤 由 起 子 (2年)
	野 上 徹 (2年)	佐 伯 隆 (1年)
	佐 伯 隆 (1年)	田 代 喜 悦 (1年)
	森 万 里 子 (1年)	山 崎 明 美 (1年)
C. B.	村 山 齊 (2年)	



3rd Stage

Conductor	桐山章 (3年)	
Alto	木下正高 (3年)	水谷誠 (3年)
1st	○吉岡昇 (3年) 岡和彦 (3年) 小林和浩 (3年) 名雲俊忠 (3年)	石垣里枝子 (3年) 小口高 (3年) 田中俊一 (3年)
2nd	○屋宮浩明 (3年) 井上直樹 (3年) 濱田功 (3年) 山本修身 (3年)	青木哲夫 (3年) 鈴木茂央 (3年) 本名佳子 (3年)
3rd	○岡敏樹 (3年) 清原浩文 (3年) 花岡健司 (3年) 村田和穂 (3年)	青木和子 (3年) 杉原以陽子 (3年) 藤岡一俊 (3年)
Bass	○芳我光一朗 (3年) 岡田芳裕 (3年) 白石仁志 (3年) 渡辺重哉 (3年)	遠藤司 (3年) 金津謙一 (3年) 松田隆 (3年)

4th Stage

Conductor	加藤友朗 (2年)	
Alto	紛川京子 (2年)	八木寛朝 (2年)
1st	○松岡茂樹 (2年) 津金久美子 (2年) 西川隆文 (2年) 丸山貴志子 (2年)	内田亜子 (2年) 高橋智子 (2年) 野上徹 (2年) 村谷宏明 (2年)
2nd	○芝田員範 (2年) 熊沢由美子 (2年) 松野美香 (2年) 鷲田圭祐 (2年)	熊谷博貴 (2年) 塩川信子 (2年) 三浦恵 (2年)
3rd	○南部雅弘 (2年) 龜山素代 (2年) 田沼充 (2年) 平野京子 (2年)	石井淳子 (2年) 田中康子 (2年) 中村仁 (2年) 藤田直美 (2年)
Bass	○大湾秀雄 (2年) 大間由里 (2年) 設楽有香里 (2年) 松本紀子 (2年)	伊藤由起子 (2年) 岡本至 (2年) 杉浦望実 (2年)
C. B.	村山齊 (2年)	

○印はパートリーダー

PROFILES

3年生

小林 和浩

いかにも東北出身の人間らしく、非常に穏やかな性格で、かつ酒をいくら飲んでも顔色一つかえないという酒豪である。原子力工学科に属しており放射線から身を守るためか、いつも鉛色の服を着ている。大変立派な口ヒゲの持主であったが、最近その自慢のヒゲを剃ったところ、鼻の下の長いことがバレてしまった。



本名 佳子

歯に衣着せぬ毒舌、突然カーリーヘアにするなど、話題にはこと欠かない女性である。アメリカン・グラフィティから抜け出したような格好をし、自転車で吉祥寺の街を徘徊するのが趣味とする。その一方で、真白な白衣に身を包み、遺跡から出土した土器の復元に挑むなど、渋い側面も兼ね備えている。



芳我光一朗

部室にいて外の方から「シューシュー」など、変な擬音語が聞えてくれば、それは彼のやってくる声である。法学部でありながら、最近はコンピューターに夢中で1日中電算機センターでテレビゲームに興じていることも少なくない。また後輩思いで彼らをよく飲み連れていき、そのためもあって後輩に人気が高い。



金津 謙一

何故かしらこのサークルで幅をきかせている広島県人の一人。法学部に在籍しているのだから、もちろん彼の専門は法律なのであるが、実は文学部を志望していたともいわれる。心理学に大変興味をもって裏専攻していて、他の単純至極な3年生の心理を見抜いてあきれはてている。物静かな男なのである。



大沢 祥子

思いやりと抱擁力を兼ねそなえ、わが3年生の「おかあさん」として慕われている。又、上級生を「クン」づけで呼んでいるのがちっともおかしくないほど、上級生にも信頼されている。彼女の生活はほとんど奥多摩で営まれているのだが、部活となると八高線の箱根ヶ崎からはるばる駒場まで通う根性の持ち主である。



前田 智

一見かわいい女の子風だが、その実体は意外な哲学者肌である。そのためかたいへん過敏な神経を持っており、単なるきれい好きの域を超えた、異常なまでの潔癖症である。まわりから何と言われようと決して自分のペースを崩さず、合宿では遊んでいる皆を尻目に1人部屋にこもって勉強したという自己中心派でもある。



杉原以陽子

おとなしい女性の多い当会の中でひととき光る都会派テニスギャル。ノート取りの神様で、試験前になると、字がきれいでかつ整然とした彼女のノートのコピーがお茶大のキャンパスに氾濫する。またカラオケが大好きで、飲みに行くとき必ずマイクを握って自慢のノドを開かせてくれる。当会きっての行動派女性である。



小口 高

クラシックの曲を弾きながら勝手な歌詞をつけて歌う、ひょうきんな吟遊詩人である。その一方で、個人レッスンの弟子に役満を振り込み、その場で破門を言いわたすという過敏な性格をあわせ持ち、そのため「エグジゼの小口」と呼ばれている。ちょっと信じられないが、実は彼は3年生の中で一番若いのである。



岡 和彦

ズリ落ちたメガネの上から我らを見つめる仕草や、背中を丸めてギターを弾く様子は、「岡じい」という彼のニックネームにぴったりである。酒の席ではみんなの介抱役にまわるなど、できた一面をもっており、みんなから「さすがは年の功」と称賛されている。同じ新潟県でも、上越新幹線の通っていない上越市の出身である。



花岡 健司

一見優雅な学生生活をエンジョイしており、彼の下宿にはコンポやクーラーはおろか仏壇まで完備している。しかしその実体は、友達から金を借りまくり後期の授業料を前期のその支払いにまわすなど、苦勞が絶えない。3年になってからはバイクを購入して都内をかけめぐり、ますます活発に活動しているようである。



村田 和穂

洗濯、掃除料理と三拍子そろった女性であるが、その反面山登りが趣味というなかなか活動的なところもある。入会は一年遅かったが、すぐサークルに溶け込み、前回の定演ではカスタネット片手に大活躍、またコンパでは酒豪ぶりを発揮する。本人は自分を悩み多き少女だというのが、どんなものでしょうかねえ。



屋宮 浩明

ヤマハXSで江の島をぶっとばす湘南ボーイである。パチンコが得意で、昨年の合宿費は前日のパチンコではじき出した。いつも部室でギターを弾いているが、女の子が来るとたちまちそちらに眼がいつてしまうたちである。彼のギターのレパトリリーは多いが、本人にいわせると途中までしか弾けないものが多いそうだ。



浜田 功

冷静沈着、淡々とした物腰は他の会員を超越し、熟年的な感じのするところから「浜じい」という愛称をもつ。サークル・二を争う情報通で、同じ千駄木に住むI先輩と「千駄木CIA」を形成し、部内の情報を収集している。人を見る目が確かな上に話し好きで、彼の手によってその真の性格を暴露された者も多い。



石垣里枝子

当会の他に東女の写真部にも属しており、定演・ハイキング etc ではカメラウーマンとして大活躍をするそのためあて、女子の中ではレクリエーション参加率がすば抜けて高い。このように活発な彼女であるが、車を運転するときは、常に父君が助手席に同乗し、サイドブレーキをしっかりと握っているのである。



吉岡 昇

ロシア語に堪能で、その背の高さと風貌から、実はロシア人ではないかとの説もある。また得意の柔道をギターに持ちこんだことでも有名である。すなわち、去年の定演の練習では、難しい箇所ばかりひたすら繰り返させ、体で覚えさせるやり方をとった。おとなっぽくて頼りがいがあるため、前期会長に選ばれた。



鈴木 茂央

岡山県出身昔は岡山弁の「ほな(標準語でいう『それなら』)」を常用し、そのために今でも「ホナ」と呼ばれている彼の言動は非常にしばしば周囲のヒンシュクを買うことで有名で「歩くヒンシュク」とも称され恐れられている。それなのに生来の陽気さのためか、どうしても憎めない不思議な人間なのである。



藤岡 一俊

当会において、一大派閥を形成する長野県人の一典型であり、そのフニャフニャした喋り方のため「フニャオカ」と呼ばれている。男女を問わず誰とでも普通に話せる気さくな性格である。そうかと思うと午前中の講義には出たことがなく、車に乗れば130km/hの超過激運転をするというわけのわからない人である。



高山 知子

そのすらりとした細身の体からは想像もできない健脚を有し、ヒールの高いサンダルをはき尾瀬の山を踏破したという話はあまりにも有名である。練習をよくやってきてくれるうえに、昨年は、サークルのデザイン関係の仕事を一手に引き受け、そのあふれる芸術性に皆が感嘆のため息をついたという貴重な才能の持主である。



PROFILES

松田 隆

料理の腕前が抜群で外食で腹を満たす他の下宿生とは一線を画し豊かな自炊生活を満喫している。そのため彼の下宿には来客の絶えることがないと言われていた。自宅生も寄って来るというから大したものだ。また、独特のリズム感の持主で、バッハを弾きながらもスウィングをする男としても知られている。



青木 哲夫

フランスの事を喋りだしたら止まらない大のフランスきちがいで独語クラスからフランス科へ進学したという、変わった経歴の持主である。普段は真面目で性格のよい東北人なのだが、アルコールが入ると意気軒昂、コンパの席での要注意人物としてマークされている。酒はこれほどまでに人を変えるものなのか。



岡 敏樹

同学年に岡が2人いるため、「トシキ」と呼ばれているが、一方で、某お笑いタレントに似たその風貌と性格から「さんま」という愛称を持つ。大の歌謡曲ファンで、今だに「明星」を毎月購入しているほどである。更に、次のことから彼の人間性が推し測ることかできよう、があの風見慎吾は彼の高校時代の同級生なのである。



井上 直樹

子供供したその顔だちと体型から、「ガキ」、「チャーリー・ブラウン」などと呼ばれ、すっかり3年生の玩具にされている。真面目な人間ではあるのだが、どこかしら首をかしげるようなところが感じられて、上級生はおろか、下級生からもさんざんにおちよくられている。まあこれも皆に愛されている証拠といえよう。



桐山 章

連絡場所がビリヤード場というほどのビリヤード狂い。彼には趣味が3つあり1つはこのビリヤード、2つめは愛器のラミレスにかえられてギターを弾くこと、3つめはウニャウニャ言いながら他人の批評をすることである。変人ぞろいの中にあっても、二重丸の奇人毒舌家であることは間違いない。



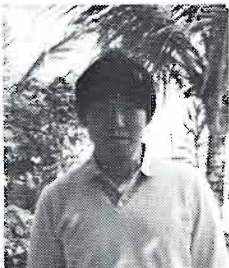
渡辺 重哉

彼は握りこぶしを口の中に入れるという秘技を持っているが、いまだかつて誰も見たことがないため、幻の技となっている。円満で穏やかな性格のためかいつもニコニコしていて「ニヤケ」の渡辺と言われている。しかしその誠実な人柄は皆を魅きつけてやまない。今日も愛車カローラを安全運転で乗り回す好青年である。



山本 修身

今年になって入部したという変わり種ブラジルで少年期を過ごしたためか、中南米の音楽に深い理解を示すが、肉食中心の食習慣から脱することができないのか高級店でステーキを食べることが趣味である。彼の釈迦のような温厚な表情と、太めの肉体美はひとえにこの豊かな食生活のたまものである。



白石 仁志

他人の帰る5限になってはじめて大学に現れてノートを取り、部員に重宝がられている存在である。ふだんは割と穏やかであるが、飲みに行くのが大好きで、酒がまわると大いにはしゃぐ。特に一年生の時の夏合宿では、コンパの後、駐車場に大の字になって寝ていて車に危くひかれそうになり、みんなに話題を提供した。



遠藤 司

真面目で大人しい人ではあるのだが、実はダジャレとぼしの名人である。落語が大好きで、膨大なカセットコレクションを持つ。昨年度は当会会計の一人として大奮闘、徹夜をすることも稀ではなかったが、愚知などは一言も口にできなかった。他の目立ちたがり屋の3年生の陰に隠れがちではあるが、好感度 No.1。



水谷 誠

その印象から「宇宙猿人ゴリ」、「ブッシュマン」「酋長」などとあだ名されたが、その名にたがわずタフで、徹夜のまま平気で翌日の講義に出る。たいへんな旅行好きで、その手腕は合宿係として遺憾なく発揮されている。また、様々な遊びに秀でており、サークルの遊びを積極的に企画してリードする存在である。



名雲 俊忠

合宿に愛車カリーナを駆ってくる男として知られている。話し上手で特に酒がはいた時に次から次へと出てくるおもしろい話は皆を飽きさせない。そのおもしろい存在ぶりから、「タケチャンマン」とも呼ばれている。しかし、反面、たいへん責任感の強い男で、任されたサークルの仕事は立派にやりとげる男である。



岡田 芳裕

1年生の頃まだお互いに名前を知らなかった女の子から、「モジャモジャ（頭）のコレ（と言っ）って彼女は両手の親指とひとさし指でマルを2つ作って目にあてた）」と形容され、皆のエピソードを持つ。酒が大好きなくせに滅法弱く、酔うと訳のわからぬ歌を作っては歌い出すひょうきん者である。



田中 俊一

彼の落ちこんだところを見た人はいない。常に明るく陽気にはしゃぎ回るその姿は、今年の3年生の象徴である。普段から活発すぎるほどなのに、「赤い」服を着ると、もうその行動パターンは予想もつけがたく、「モエ」「夏の男（彼にとっては一年中いつでも夏なのである）」などと称されて恐れられている。



木下 正高

サークルの流行語の大部分は彼から発しているほどのヒットメーカーである。シェーキーズではコンスタントにピザを、20枚以上たらいらげる大食漢であり、80kgはあるかという体格、ヌーボーとした性格をあわせて考えてみると、彼の「クマ」というニックネームは、付くべくして付いたもの、と言うべきだろう。



清原 浩文

熊本の出身で、見たところいかにも肥後もっこすとの印象をうける。入部した直後から、さっそく先輩と麻雀を始め、サークルにまっさきに馴染んだ男である。最近も土曜日毎に先輩の下宿へ行って宴会を開いている。意味不明の言葉を大声でわめきその特異な発声から、「きゅっぽあ」とあだなされている。



青木 和子

酒落た感覚の持主で、今日も六本木あたりを闊歩するCITY・GAL。素敵なお姉様という雰囲気、男女を問わず皆から大いに頼られている。3月までは大山寮の美女連を率いていたのだが、3年生になって一人小石川寮に移ってしまった。それでもお茶女の会員に対する彼女の威光は微塵もゆるぎそうにはない。



♡♡♡♡ MEMBERS ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

2年生 私達2年生は、なーんと男子部員と女子部員がほぼ同数という、当会初まって以来の明るく楽しい学年です。(先輩ゴメンナサイ) 普段はのんびり、わきあいあいとしてますが、いざ練習となれば真険そのもの(?) 今日、男子部員の力強さと女子部員の繊細さのみごとな調和、その息の合った演奏をとくと御観賞ください。



1年生 ハイ僕達私達一年生！有り余るバイタリテイのやり場に困ってるんだよね。この定演だってもっと目立ちたいんだけどなあ。練習練習と2年生に追い立てられて、そのくせ合奏では後ろに追いやられて観客から顔が見えないんだよね。さあーて、打ち上げコンパで飲んで騒いでエネルギーの昇華といこう。……来年の定演に乞う御期待！



足台の革命

ZAX PROUDLY ANNOUNCES THE INNOVATION
OF A GUITAR FOOT STOOL!



U.S.A PAT
No. 4296694

金属製 ZF102 ￥2,000
ZF103 ￥2,500
木製 ZW101 ￥4,900
ZW102 ￥14,000

製造元

ZAX MUSIC CENTER

東京都武蔵野市吉祥寺本町1-17-12朝日ビル ☎0422(21)1027

古本売買

ゆき書房

駒場東大前東口2分
電話 (465) 4682

麻雀孔雀荘

TEL. 465-0133



麻雀クラブ

泉

井の頭線駒場東大前駅前
TEL 460-4800

駒場祭のお知らせ

11月18日(金)～20日(日)

東大駒場キャンパスにて

ギターコンサート

ギター生演奏喫茶

お誘い合わせの上、お越し下さい。



▲世界の名品を集めた……
ギターギャラリー ファナ

世界中のプロから愛されている
ギター。それはスペインの名品、
ホセ・ラミレスです。とりわけ、
ファナで選びぬかれたハカ
ランダ材のラミレスは、近年
プロ・アマを問わず圧倒的人気
を博しています。

JOSE RAMIREZ
ホセ・ラミレス〈ハカランダ〉 ¥750,000

名品はファナでお求め下さい。

■「ギターのおしり」を差し上げます。
「ギターを弾こうで見た。ギターのおしり送れ」と申込んで頂けれ
ば、ギターの管理、健康診断、ギターに必要な付属品等の説
明書を無料にてお送り致します。
〔世界の名器・日本の名器カタログもあります。送料込 700円〕

10月1日
ラミレス・ハカランダ12本入荷
予約受付中!!

FANA CORPORATION
FANA

株式会社 ファナ 東京都豊島区目白3-24-8 TEL. 952-3261代
営業時間 10:00A.M.~8:00P.M. 日曜・祭日も営業いたします。